

# ゲーミングPCに必要なスペックと おすすめのグラフィックボード

## 1.CPU

CPUは、「AMD」と「Intel」があります。

いずれも好みが分かれるところですが、こちらでは安定していて人気のある「Intel」製CPUのみを取り扱います。

(知識と経験を積んだ後、独自で「AMD」製CPUを取り扱うのも良いかも知れません)

CPUの種類にはCeleron、Pentium、Core i3、Core i5、Core i7、Core i9があります。

Celeron、Pentiumは、性能が低くゲーミングには不向きで、仮にゲームができてても落札率が非常に悪いので除外します。

Core i3も最近に発売されたものは高性能ですが、以前のもは画像を描画する性能が低く、人気も薄いため、初めのうちは避けておいた方が無難です。

Core i9は高性能ですが、まだまだ高価ですのでここでは避けておきます。

Core i5、Core i7のいずれかを使用するのがおすすめです。

### 1-2.CPUの世代

CPUには世代があります。

今回、おすすめのCore i5、Core i7のシリーズが発売されたのが2008年です。それ以降、徐々にスペックアップした世代というものがあります。

世代が高いほど高性能で新しく、人気があります。

同じ世代でも種類がありますが、Core i7の例で世代の見分け方を解説します。

(例ですので、これ以外のプロセッサNo.のものもあります)

第1世代	Core i7-860
第2世代	Core i7-2600
第3世代	Core i7-3770
第4世代	Core i7-4770
第5世代	Core i7-5775
第6世代	Core i7-6700
第7世代	Core i7-7700
第8世代	Core i7-8700
第9世代	Core i7-9700
第10世代	Core i7-10700
第11世代	Core i7-11700
第12世代	Core i7-12700

第1世代はプロセッサNo.が3桁、第2世代から第9世代はプロセッサNo.が4桁で先頭の数字が世代になります（第4世代なら4770で先頭の数字が4）。

第10世代以降は、プロセッサNo.が5桁となり、先頭の数字2桁が世代となります。

現在、最新の世代は第12世代です。

世代が新しいほど、高額で売れますが原価も高額になってしまいますので、ある程度の知識と経験を積んでから取り扱うのをお勧めします。

まず、私がおすすめるCPUは、

- ・ **Core i5 第4世代から第6世代**
- ・ **Core i7 第2世代から第6世代**

です。

## 2.メモリー

ここで扱うメモリーには「DDR3」と「DDR4」という規格があります。

一般的に第6世代以降のCPU搭載機は「DDR4」、それ以前の世代のCPUを搭載した機種は「DDR3」となっています。

(稀にマザーボードの仕様で異なる場合もあります)

メモリーの規格を確認するには増設前に装着されていたものを確認するか、それでわからない場合はマザーボードの型番をネット検索して仕様から調べることで確認できます。

原価や性能設計によって異なりますが、最低8GB、もしくは16GBを搭載するのが基本とここでは考えておいてください。

マザーボードによって、メモリースロットの数が異なります。一般的には4スロットか2スロットのものになります。高性能なものでは8スロットのものもありますが、ほぼ4スロットか、2スロットとっておいてください。

8GBを搭載する場合、4スロットの場合には2GB×4でも合計8GBですが、4GB×2の方が落札率は上がります。その理由はお客様が後から増設しやすいからです。2スロットの場合は4GB×2しかできません。

16GB搭載する場合は、4スロットの場合、4GB×4の合計16GBで大丈夫です。8GB×2ではコストバランスが悪く、落札率への影響も大して変わらないからです。2スロットの場合は必然的に8GB×2の搭載となります。先に述べている通り、コストバランスが悪いので、できるだけ16GB搭載の場合は4スロットのマザーボードの機種をお勧めします。

それ以上の搭載量では落札率は高くなりますが、コストバランスを考えるとある程度の経験を積んでからをお勧めします。

### 3.記憶装置

記憶装置には従来のハードディスクとSSDがあります。

最近ではSSDが主流となっており、中古市場でもSSDでないと落札率も極端に落ちます。

しかし、SSDはハードディスクに比べると高価です。

現在のパソコンに搭載される記憶装置の容量は1TBが目安となりますが、この容量のSSDとなると安くとも1万円以上になります。

これでは、パーツとして高価すぎますので、SSDとハードディスクの両方を搭載するのが良いです。

SSDを起動用として、OSやアプリケーション、ゲームなどをインストールするようにして、ハードディスクをデータの記録用として使用する仕様とすることで容量もコストもおさえることができます。

SSDは新品で購入した方が安価ですので、Amazonや価格.comで安価なものを調べて購入すると良いでしょう。

容量は240GBもしくは256GB、ハイスペックにしたい場合でも480GB、もしくは512GBを搭載します。

価格は240GB、もしくは256GBの場合は3500円前後、480GB、もしくは512GBの場合は6500円までを目安にします。

私の場合、240GBを使用することがほとんどです。

ハードディスクは仕入れた本体に中古のものが付属していることが多いので、それを使用することが多いです。

その場合は追加の費用はかかりませんが、付属していなかったり、壊れていた場合には別途準備する必要があります。

購入はヤフオクかドスパラで中古の500GB、もしくは1TBを購入しています。

ハードディスクの場合はデータ保存の役割ですので500GBでも、1TBでも落札率にはそんなに影響しません。

ですので、購入する場合は500GBのもので原価を抑えるも良いかと思えます。

価格は中古品で1500円を目安に、1TBの場合は2300円前後を目安に購入すると良いです。

SSDだけを搭載していても売れますので、それで出品して反応が悪くようでしたらハードディスクを追加する方法もあります。

## 4.グラフィックボード

グラフィックボードには、AMDのRadeonシリーズのものと、NVIDIAのGeforceシリーズのものがあります。

Geforceシリーズの方が圧倒的に人気ですので、こちらを取り扱うようにします。

稀に仕入れたパソコンにRadeonシリーズの高性能なものが搭載されていることもありますので、その場合はそのまま使用して出品額をおさえましょう。

Geforceシリーズの中でも、「GT」、「GTX」、「RTX」と大まかにシリーズがあります。

この中で「RTX」は非常に高性能でプロのゲーマーに人気のシリーズですが、かなり高価で一般的なゲームを楽しみたい方にはオーバースペックであり、そこまでのスペックを高額でも求める方というのは少ないです。

価格が中古でも8万円以上と非常に原価が高くなりますので、除外します。

おすすめのグラフィックボードと価格（2021年11月時点の相場）

GTX750ti	5000～8000円
GTX770	8000～11000円
GTX960	8000～11000円
GTX980	23000～27000円
GT1030	9000～11000円
GTX1050	11000～14000円
GTX1050ti	17000～21000円
GTX1650	23000～26000円

まだまだ種類はありますが、この辺りが人気で性能とコストのバランスが良いです。

価格は中古市場での相場です。

ネット仕入れ、店舗での購入、状態などによりこの程度の変動があります。

多少オーバーしても大丈夫ですので、上表を目安にしてください。

グラフィックボードは、価格変動が大きいので注意してください。

仮想通貨のマイニング需要があると一気に市場から無くなり高騰することもありますので、その場合は多少スペックを落としてブームが去るのを待ちましょう。

グラフィックボードは価格の変動が大きいです。高騰した場合は、そのグラフィックボードを搭載したパソコンも高額で落札されますので過度の心配は不要ですが、ヤフオクや価格.comでその動向を常にチェックしておきましょう。

ヤフオクやフリマサイトで良い出品がなかったり高額まで吊りあがってしまっていて購入できない場合は新品を購入するという方法もあります。

価格.comで最安値を調査して購入するのが良いです。

その場合、当然、中古品より高額になりますが、「新品」であることをアピールして出品することで多少の利益率は下がるかも知れませんが、中古品を搭載しての出品より高額で落札されます。

## 5.電源ユニット

電源ユニットは仕入れたパソコンに搭載されていたものを使用するのが常ですが、稀に壊れている場合があります。

仕入れる場合には600W以上の容量出力のあるものが良いでしょう。